

# 奄美大島・喜界島農業の動き

■令和6年11月

## 1 のべ100名を超える新規就農者等が「農業基礎講座」に参加！

奄美市及び喜界町の2会場での、7月下旬から10月下旬に実施した新規就農者や研修生を対象にした「農業基礎講座」がすべて終了しました。延べ130名（大島112名、喜界18名）が野菜、病害虫防除、農業経営等の10分野の基本的知識・技術を学びました。管内は果樹の新規就農者が多いため、果樹部門は総論と各論に分け、受講生の理解促進に努めました。アンケート等から研修は好評でした。今後も個別支援、専門講座等を通じて受講生の技術知識の習得を図っていきます。

## 2 奄美群島内のたんかん産地相互の交流を深める！

11月7日から8日にかけて、奄美大島・喜界島のたんかん生産者・関係者を含む10名で徳之島を訪問しました。島内6か所の樹園地での取組状況を視察した他、室内でテーマ別の意見交換会や懇親会を通じて研鑽と相互の交流を深めることができました。徳之島の皆さんの丁寧な対応のもと、栽培技術論や継承・後継者育成など話題は尽きず、お互いの産地を高め合い、奄美群島内のたんかん振興の結束を確認できました。今後も、他産地との積極的な交流を通じて、学びの機会を設けていきたいと考えます。



現場でのせん定技術検討のようす



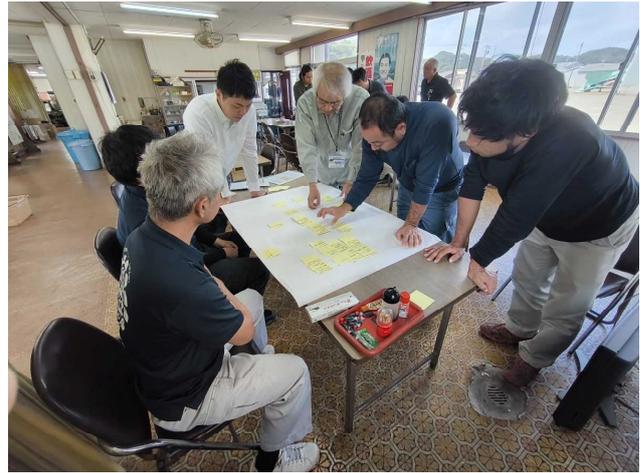
室内での意見交換会のようす



現場での幼木育成技術検討のようす

### 3 「今後のハーベスタオペレータを確保していくために」関係者で熱く協議！

奄美大島では、さとうきび収穫作業を担うハーベスタ組織のオペレータ後継者が不足しており、その確保に向けた取組が必要な状況です。そのきっかけとして、11月18日に富国製糖で、役場・製糖会社等の関係者で検討会を開催しました。「今後のハーベスタオペレータを確保していくために」をテーマにKJ法を使って話し合ったところ、沢山のアイデアが出されました。今回のアイデアを基に、関係機関と連携しハーベスタオペレータの確保に繋げていきたいです。



ハーベスタオペレータ確保検討会のようす

### 4 JAあまみ果樹部会が大規模な現地検討会を開催！

11月19日、JAあまみ果樹部会が奄美市・大和村の柑橘園地4か所を巡回する島内現地検討会を初の試みとして開催しました。当日は、20台の車両を連ねて約100名が参加する大規模な集まりとなりました。各々の園主と普及指導員の解説をもとに、屋根掛け栽培技術や新樹形などの最新の取組から温暖多雨な気象への適応技術まで、部会員との対話形式で見識を深めることを主眼に、時間をかけた丁寧な検討が進められました。参加者の満足度と部会の一体感を共有する絶好の機会となりました。



津之輝の最適摘果技術検討のようす



津之輝の屋根掛け栽培技術検討のようす



たんかんのせん定技術検討のようす

## 5 喜界町のさとうきびのスマート農業への取組

11月20日、喜界町コーラルプロジェクト第1回推進会議が喜界町役場で開催されました。本プロジェクトは、琉球大学が沖縄県南大東島で実施したスマート農業プロジェクトを応用して、製糖工場のデータや農家の作業記録等を管理する営農支援システム、自動操舵システム、ほ場水分の蒸発散量を測定する微気象観測システム、ドローンモニタリング等のデータを解析し、さとうきびの生産性向上を目指します。農政普及課もこのスマート農業への取組を支援して産地育成に努めます。



喜界町コーラルプロジェクト